

あだたら



「ふくしまグローバルセミナー2008」特集

(写真：平成20年12月13日 開会式の様子)

ふくしまグローバル セミナー2008

【開催概要】

日時：平成20年12月13日(土)12:30~
14日(日)13:30 1泊2日

場所：JICA二本松

参加者：高校生以上一般 183名

構成：高校生 29.0% / 大学生 18.6%
教員 13.7% / 一般 38.8%

プログラム：オープニングセッション
セッション 21講座
参加者交流会/フリーセッション
クロージングセッション

主催：福島県国際理解教育ネットワーク
(構成団体：福島県/福島県教育委員会/
財団法人福島県国際交流協会/JICA二本松)

今冬もグローバルセミナー2008を盛況裡に実施出来ました。通算12回目の今回は講師・スタッフも含めると200名以上という過去最多の参加で、JICA二本松開設以来初めて定員一杯の宿泊者数でしたが、幸い何の支障もなく、本当に皆さんの熱気に圧倒される2日間でした。ひとえに主催団体の福島県、県教育委員会、県国際協力協会を始め、多くの皆様が長年培ってきた福島発の国際協力・交流の輪が大きく広がっている証といえましょう。

今回も、JICA海外ボランティアの活動体験談を始め、草の根技術協力を実施中の県内団体の苦労話や開発教育の実践ノウハウを披露しました。受講者も講師と一緒に目からうろこの学びの出来る多彩な講座を20以上用意して、福島でも多様な国際協力・交流が実践できることを実感していただくことができました。

今後も福島発の皆さんの国際協力にける熱い思いに応えられる企画を展開していきたいと思ひます。
JICA二本松所長 表 孝雄

2日間、国際協力や国際理解をキーワードに世界を知り、考え、熱い議論が繰り広げられました。



プログラム紹介

【各講座定員20名程度】 ※プログラム・内容等は変更となる場合があります。

12月13日(土) ●受付 12:00~12:30 ●開会式 12:30~12:45

オープニングセッション
12:45~13:45

講師：木下理仁 かながわ開発教育センター (K-DEC) 事務局長

講座A

講座B

講座C

講座D

セッション1
14:00~15:30

違いは豊かさ
~カナダから見た異文化コミュニケーション~
マクマイケル・ピリィ
財団法人国際交流協会

ニュージーランドへの旅
~異文化への旅~
ジェシカ・ハーヴィ
福島県国際課

アジアのマンガから世界を見よう!
日下部喜美子 船と翼の会ふくしま
菅野 裕子 船と翼の会ふくしま

ケニアでの驚くような生活
景山 とも子
元JICA 青年海外協力隊ケニア派遣村務開発普及員

セッション2
15:45~17:15

你好!中国からのメッセージ
蒙 貞堂 福島県国際課

パーム油から見える世界
菊地 恵美子 国際交流の会・かるみあ
グローバル教育研究会ふくしま
山田 達也 国際交流の会・かるみあ/日本大学工学部

やさしい日本語って?
~外国語としての日本語~
永島 恭子
郡山市国際交流協会日本語講座講師

みんなで考えよう!
ODA (政府開発援助) のこと
澤井 史郎 平成20年度ODA民間モニター (パングラデッシュ)
関 英理子 平成20年度ODA民間モニター (チュニジア)
表 孝雄 聞き手/JICA 二本松所長

●参加者交流会 (夕食会) 18:00~19:15 ●フリーセッション19:30~20:30

12月14日(日) ●朝食 7:15~8:00

セッション3
8:30~9:30

iBienvenidos!
ようこそアルゼンチンへ
ロドリゲス 森 マリア セリア
福島県若智学生

世界のため、今できることを始めよう!
~「国際貢献リーダー養成講座」活動報告~
平成20年度
「国際貢献リーダー養成講座」参加者

ドミニカ共和国って
どこにあるの?どんな国?
坂本 ミチ子 元JICA シニア海外ボランティア
ドミニカ共和国派遣 算数教育指導

ウズベキスタンに根付け!
伊達の果樹栽培技術
宍戸 利夫 福島県ウズベキスタン文化経済交流
JICA 草の根技術協力実施団体
佐藤 孝雄 NPO 法人伊達市ウズベキスタン農業交流
佐藤果樹園経営

セッション4
9:45~10:15

Viva Brasil! 熱帯の国
吉田 すみれ リンダ 福島県費留学生
梅崎 青田 ファブリシオ 福島県費留学生

人材開国「多民族共生国家」
~外国人移民受け入れの是非を考える~
五十嵐 直樹 財団法人国際交流協会 専務理事

チョコレートの裏側 in ガーナ
渡邊 太 福島市立平野小学校
平成20年度JICA教師海外研修ガーナ派遣
川野 寛光 日本大学東北高等学校
平成20年度JICA教師海外研修ガーナ派遣

「リラックス」が世界をつなぐ
~極みのある子どもたちへの交流から見えてきたもの~
根本 健一 福島県若智の者の職作習研究会(FAMA)
根本 香奈子 JICA草の根技術協力実施団体

クロージングセッション
11:00~12:15

講師：木下理仁 かながわ開発教育センター (K-DEC) 事務局長

●閉会式 12:15~12:30 ●昼食 12:30~13:30



新たな出会いときっかけ、そこから始まる国際協力。

—アンケートの結果より—

- 参加回数：初めて 72.5%、2回目 13.4%
- 参加の目的：国際交流や国際協力に興味がある。世界の国々や世界との関わりに関心があるから。
- 各講座満足度：5点満点中 各講座4点以上（平均）
- ニーズにあったか？：大いに&ある程度 92.2%
- 今後の活動に役立つと思うか？：大いに&ある程度 90.9%



感想など

- 初めての参加でしたがいろいろな年代・職業の方々と共に学び分かち合うことの喜びを感じました。ありがとうございました。
- 内容の濃い2日間を過ごすことができ本当に充実した気持ちです。今後もこういう催しに参加していきたいです。
- 日本は変わると思いました。
- 新たに学べたことがたっくさーんありました。とても勉強になりました。また来たいなと思います。（来年は受験なので来れるかどうか）
- いつも志を新たに自分に喝を入れてくれるセミナーに感謝です。
- 福島で国際協力に関するこれだけ大きなセミナーが開催できるのはすばらしいと思います。

全体講師 かながわ開発教育センター

事務局長 木下 理仁

このセミナーの魅力は、なんとといっても、多様な参加者による相互の学び合いがあることです。ふつう、200人もの参加者を対象にワークショップを行うのは非常に難しいのですが、今回は、それが驚くほどスムーズにいきました。年配の方がさりげなく高校生の意見を引き出し、若い人のエネルギーが会場を明るく活気に満ちたものにし、理想的な形で「参加型の学びの場」が形作られていきました。福島の皆さんに、私も多くのことを学ばせていただきました。



講座E

「いのち」の選択

渡邊 一代 元JACA派遣専門家 助産師
布田 節子 グローバル教育研究会ふくしま

ドンパード！マイクロクレジット ～バングラデッシュ女性が得た本当の喜び

山田 由佳子 県立空間看護学校
平成19年度JICA教訓海外研修/バングラデッシュ派遣
松本 大光 福島県立湯野小学校
平成19年度JICA教訓海外研修/バングラデッシュ派遣

講座F

グローバルな課題を考える ワークショップの教材づくりに挑戦！

木下 理仁
かながわ開発教育センター（K-DEC）事務局長

世界の水資源の実態と環境問題

柴崎 直明 福島大学理工学群共生システム理工学類教授
元 JICA 派遣専門家

対人力を磨きたいっ！

～使える!!異文化コミュニケーションワークショップ～

後藤 真
ジン・リキ ファシリテーション/臨床心理士

◆ふくしまグローバルセミナー2008報告HP

<http://www.pref.fukushima.jp/kokusai/contents/rikai/global/2008/index.html>

福島中央テレビ アナウンス部

中山可那子

FCTアナウンサーから「おしえて！うつくしま」で取材をさせていただき、参加者の意識の高さにはっと目の覚める思いがしました。みなさんとてもしっかりとした考えを持っていて、インタビューでは、私が聞いてみたいと思っていたこと以上のお話をしてくださいました。



これからの国際化をリードしていく人がきっとこのセミナーから出るだろうと希望の持てる有意義なセミナーで、視聴者からの反応も大変良かったです。ますますの発展に期待しております。

◆福島中央テレビ「おしえて！うつくしま『世界を学ぼう』」で、「ふくしまグローバルセミナー2008」の様子が1月18日(日)に放映されました。

高校生から70代のベテランの方まで、まさしく、年齢や職業の垣根を越えたグローバルな視野が広がるセミナーでした。貴重な体験を提供していただいた講師の皆様、そして積極的に活動した参加者の皆様に、深く感謝いたします。
福島県教育庁 大竹

福島で世界の問題や私たちにできることについて仲間と語りあえる機会って本当に素敵だと思えます。私も高校生のころにこんな機会があったらなあ・・・たくさんのパワーをもらえた2日間でした。

JICA福島デスク 橋本

担当者として、円滑に運営できるかどうか不安でしたが、参加者の皆さんの高い意識と講師・スタッフの皆さんの協力により、とても素晴らしいセミナーになりました。次回も是非参加してください。初めの方も大歓迎です。
福島県国際課 早川

このセミナーも12回目を迎え今回は定員を遙かに超える過去最高となる約200名の参加。人と人のつながりがよいパンデミックを予感させる2日間でした。

福島県国際交流協会 幕田



異文化の眼

[第2回]

～祖父母が育った福島で生活して～

福島県費留学生

グローバルセミナー2008参加講師 ロドリゲス・森・マリアさん



はじめまして、私はロドリゲス森マリアです。アルゼンチンのブエノスアイレス市から参りました。

私はブエノスアイレスで生まれましたが、祖父母は福島県の川俣町出身で、私は日系3世にあたります。祖父母からは、移住した頃、いろいろな仕事をしたというような苦労を聞いたり、日本の文化や福島の風景の色について懐かしそうに話すのを聞きながら育ちました。その話を聞く度、福島はなんて素晴らしいところなんだろう、将来ぜひ行ってみたいと思っていました。

長年、そんなことを思っていたら、機会があり、去年の4月から福島県の留学生として、日本で勉強する機会に恵まれました。私の専門は建築で、ブエノスアイレス大学を卒業して、その後、大学の建築デザインの分野でアシスタントをしていたことから、現在、日本大学工学部の研究生として、日本とアルゼンチン建築の比較を研究しています。

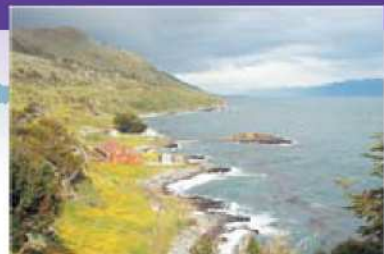
祖父母には日本のことをいろいろと聞かされてきましたが、実際に来てみると、驚くことも多かったです。例えば、ラーメンを食べるときは麺をす

する音をさせると聞いていましたが、あんなに大きな音をさせるとは思ってもみませんでした。

また、祖父母から聞かされていた福島の実家を訪れ、自分と福島の結びつきを実感することができ、自分のアイデンティティの中に福島の心があることに誇りを感じることもありました。

福島では、県の留学生として来日しているので、国際課のイベントをお手伝いすることもあります。小中学生向けの地球体験キャラバンでは、アルゼンチンのことを紹介したり、子供と一緒に遊んだりしました。

また、グローバルセミナーでは、1つの講座の講師も務めました。1時間の講座を一人ですので、日本語で話続けるというような苦労もありましたが、参加した方からのアンケートを後で見せていただく、「アルゼンチンが魅力的な国だ」ということがわかった」とか、「アルゼンチンに行ってみたくなった」という意見をいただき、とても嬉しく思いました。自分の講座以外では他の講座に参加し、コミュニケーションの重要性を学んだり、とても興味深いものでした。こういった講座に参加したのは初めてだったので、今後も参加していきたいです。



▲マリアさんの従姉妹が住む、世界最南端の街Ushuaia

あと数ヶ月でアルゼンチンに帰国することになりますが、実際に祖父母の育った福島で生活し、ますます日本の文化はとて身近に感じました。またいつか福島に来て、さらに専門的なことや日本の文化などをもっと勉強して成長していきたいと思っています。

Gracias!
(ありがとう!)



▲マリアさんとマリアさんのご家族



アルゼンチン共和国 国旗



アルゼンチン共和国 Data

面積：278万平方キロメートル
人口：3,950万人(2007)
首都：ブエノスアイレス
公用語：スペイン語
通貨：アルゼンチン・ペソ (ARS)
1ARS=約¥25 (2009年2月現在)



World Quiz ワールドクイズ

Q 1993年6月に日本で発売されミリオンセラーを記録して、2002年にはサッカーワールドカップでアルゼンチン代表の公式ソングになった歌とは？

- ①「負けないで」 ZARD
- ②「鳥歌」 THE BOOM
- ③「YAH YAH YAH」 CHAGE&ASKA

答えは●ページに

福島県在住 OB OG 体験記

[第4回]

隊員経験から学んだことを 形にして伝える



青年海外協力隊 平成18年度第1次隊
村落開発普及員 ケニア派遣
景山 とも子 (郡山市在住)

私がケニアで与えられていた任務は、既に日本や他国の援助によって湧き水に設置した、簡易浄化槽の維持・管理と新規設置を配属先である地方開発局や村人と協力して行うことでした。わくわくしながら村に入った私でしたが、すぐに落胆させられました。配属先も村人も私たちの援助に完全に依存していたからです。そのぶん、赴任当初は誰からもあてにされていたことが原因で、私が浄化槽の修理も新規設置もしないことを同僚が知ると、何度も衝突していました。同僚は村をまわって解決策を探すことよりも、ドナーを探すことが彼らの仕事のようにしか私には映りませんでした。丈夫で長持ちする浄化槽をつくるだけなら金と技術のある人を連れてくれば簡単につくれます。しかし、彼らに必要なのは、浄化槽そのものよりも水問題を自分達で解決しようとする意志、すなわち彼らに自立する意志があってこそ、私たちの活動は意味をもつと思います。最初の種をまくのは私たちであっ

てもかまわないでしょう。ただ、彼らの自立心が芽生える前に、私たちが水道をひいて水を撒き、もともとケニアになかった肥料を与えては、援助に対する依存へと導いてしまいます。咲いた花を贈って水のあげ方を教えても、それは援助という名のただのプレゼント、その土地にあった花を咲かせるその過程を現地の人々とじっくり根をはりながら共に過ごすことが協力隊の醍醐味であり、最も大切なことだと学びました。

今回、グローバルセミナーで講師を務めさせていただきましたが、2年間ケニアで活動したとはいえ、人前で話すことに実はものすごい勇気が必要でした。ありがたいコメントをいただけることもあれば、もちろん、批判的な意見をよせられることもあります。どれもとても貴重なものばかりでした。こういった場で人に伝えることを通して、今は福島でたくさんの学びの機会を得ています。



▲写真中央：青年海外協力隊時代の景山JOG

「次代を担う中・高校生に 豊かな体験活動の場を提供しています！」

棚倉町教育委員会 主査兼社会教育主事 陣野 一 弥

棚倉町教育委員会では、中・高校生を対象とした「棚倉町ヤングボランティア」事業を平成19年度から開催しています。

現在、中学生15名・高校生23名・大学生2名の合計40名の皆さんの登録をいただき、これまでに、各種ボランティアセミナーへの参加、子どもたちを対象にした町公民館事業・イベントでのボランティア活動、認知症高齢者グループホームへの訪問、町内外ボランティア団体との交流活動等を行ってきました。

本事業は、次代を担う中・高校生の皆さんが地域の様々な方々と触れ合い・交流する中で、人間として成長していくことを願っており、「ふくしまグローバルセミナー」では国



際理解・交流という点から視野を広めるための貴重な機会として参加させていただいております。

今回、高校生6名・大学生2名（内ヤンボラOG1名）が参加してくれましたが、活動後の感想には次のような内容がありました。「同じ気持ちの人、また別の考え方を持つ人、様々な人たちと交流できた。」「人と意見交換をすることで自分の中の輪が広がることが分かりました。」

グローバルセミナーでは、世界の様々な国々の生活の違い、貧富の格差の現実等の問題を高校生・大学生・一般が世代・職業を超えて、同じテーブルで意見交換をしながら、幅広い視野で楽しく学ぶことができます。このような中で、様々な「違い」を尊重し、自分から主体的に他者に働きかけ、課題解決していくことができる力をヤングボランティアの皆さんが育てていくことを期待しています。



「JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2008」受賞者発表

本年度、たくさんの応募をいただきました「JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2008」の受賞者が、平成21年1月22日に発表されました。福島県では昨年度を大きく上回る応募があり、個人受賞者は《中学の部》で5名、《高校の部》では4名、また学校賞では中学、高校あわせて16校が受賞しました。受賞者、受賞校は下記の通りです。

受賞しました皆さん、学校の皆さん、おめでとうございます。また応募していただきました皆さん、ありがとうございました。来年度のご応募、お待ちしております。

「JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2008 受賞者」

受賞名	学校名	受賞者氏名	学年	作品タイトル
中学の部				
審査員特別賞	桜の聖母学院中学校	サクラ エステル さん	第1学年	「福島に生まれて今思う目標」
JICA二本松 所長賞	会津若松市立河東中学校	前田 智子 さん	第3学年	「豊かさとは」
佳作	三春町立栗田中学校	佐藤 美紀 さん	第3学年	「最初の一步」
佳作	須賀川市立西袋中学校	星 結衣 さん	第1学年	「私にできる国際協力」
佳作	福島市立北信中学校	菅野 翔未 さん	第3学年	「地球に暮らす一員として」
青年海外協力協会 会長賞	二本松市立二本松第一中学校	安達 礼登 さん	第2学年	「身近な国際協力」
高校の部				
JICA二本松 所長賞	福島県立平工業高等学校	藁谷 成二 さん	第3学年	「世界に広げたい絆の大切さ」
佳作	日本大学東北高等学校	増子 恵美 さん	第3学年	「紛争の国への援助をする意味」
佳作	福島県立あさか開成高等学校	内海 奈保子 さん	第2学年	「戦争を行う意味」
佳作	福島県立福島高等学校	渋谷 瑞希 さん	第1学年	「あなたの好きな食べ物は何か?」
青年海外協力協会 会長賞	福島県立あさか開成高等学校	飛田 由佳 さん	第1学年	「日本に住む外国人のためにできること」

「JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2008 学校賞 受賞校」

学校賞 受賞校	
中学の部	
学校賞	郡山市立郡山第一中学校
学校賞	田村市立船引中学校
学校賞	二本松市立二本松第一中学校
学校賞	福島市立北信中学校
学校賞	福島市立福島第三中学校
学校賞	伊達郡桑折町立藤芳中学校
学校賞	白河市立白河南中学校
学校賞	白河市立白河中央中学校
学校賞	郡山市立郡山第三中学校
学校賞	学校法人 ザベリオ学園 郡山ザベリオ学園中学校
学校賞	本宮市立本宮第一中学校
学校賞	会津若松市立第五中学校
学校賞	白河市立表郷中学校

上位入賞者(審査員特別賞)の表彰式は、平成21年2月28日(土)から3月1日(日)まで、東京にて副賞の海外研修旅行の第一次研修と併せて実施する予定です。

※
特別学校賞…過去5年間を通じて毎年応募があり、かつ過去5年間で合計500作品以上の応募があった学校、または過去5年間で全校生徒の5年分の5割以上応募があった学校に送られます。
学校賞…40作品以上の応募があった学校、または全校生徒数の3割以上応募があった学校に贈られます。

高校の部	
特別学校賞	福島県立あさか開成高等学校
学校賞	福島県立福島高等学校
学校賞	福島県立富岡高等学校

本年度のポスター



新シリーズ連載

JICA ボランティア訓練中!

地域の皆さん、こんにちは!!

～ JICA 二本松青年海外協力隊訓練所 所外活動情報～

JICA二本松青年海外協力隊訓練所では、JICAボランティア(青年海外協力隊及びシニア海外ボランティア)を対象とした65日間の派遣前訓練を年に4回実施しています。

訓練プログラムのひとつ「所外活動」では、ボランティアたちが訓練所近辺の保育施設、福祉施設、農家などを訪問し、それぞれの施設等での日常業務を体験します。初めて訪れる場所で初対面の人々と協力しながら仕事を成し遂げる経験は、これから見知らぬ任国へ旅立つボランティアたちの自信へと繋がります。

所外活動 受入先

社会福祉法人銀河 知的障害者更生施設(通所) すばる



本宮まゆみ小学校の正面に立つモダンな建物が「すばる」です。本宮市近辺の知的障害をもつ方々に様々な福祉サービスを提供しておられます。「すばる」について施設長の大沼芳晴さんにお話を伺いました。

聞き手 — 具体的にはどのようなサービスを提供されているのでしょうか?

大沼さん 約30名の通所者の方々に、地域での社会生活を豊かにしていくための支援を行っています。例えば共同での軽作業(いわゆる内職)や、健康管理のための運動などを行っています。

— 他にはどのような事業を行っておられますか?

様々な障害児・者の方を対象に家庭を訪問する居宅介護や、施設で一時お預かりする日中一時支援、余暇活動を支援する移動支援事業などを行なっています。また、共同生活を通じて地域での自立を目指すため、地域の親の会と連携して生活ホーム訓練を行っており、いずれケアホーム事業に結び付けたいと思っています。

— 「すばる」はどのような経緯で設立されたのでしょうか?

か?

本宮近辺の障害者の親たちの集まりである「親の会」が平成2年に設立した小規模作業所が前身になっています。その後利用者が増加したこともあり、平成12年に社会福祉法人の認可を受け、平成13年に「すばる」を開所しました。

— 「すばる」の特色はどこにあるのでしょうか?

地域から受けた支援を地域に還元できるような活動を目指しています。例えば所外の散歩の際にゴミ拾いを行ったり、PETボトルキャップの回収を行ったりしています。環境保護の面では、牛乳パックを利用した紙漉きも行っています。漉き上がった紙は葉書などの作品としてフォレストパークあだたらの売店などで販売しています。

— 「所外活動」におけるJICAボランティアの受け入れについては、いかがですか?

大変ありがたく思っています。施設に来られるボランティアの方の中には、自分の得意分野を活かそうとするあまり、利用者のニーズに合わなくなってしまう方もいらっしゃいます。その点JICAボランティアは、利用者の日常に溶け込む形で活動してもらえるので、とても助かります。

— 利用者の方やJICAボランティアにとってどのようなメリットがあるとお考えですか?

利用者の方々は社会との接点が限られた生活を送っています。JICAボランティアのような外部の人と接することは利用者の方々の自己成長につながると思います。JICAボランティアにとっては、言葉以外の手段も活用してコミュニケーションを行う経験が、文化や習慣の異なる任国での活動に役立つのではないのでしょうか。

— 本日はどうもありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

(平成21年1月29日)



課題別(地域別)研修

「中央アジア地域 医療機材管理・保守」コース

弊社がJICAから受託実施している医療機材管理・保守研修コースの中でも、今回初めてとなる中央アジア地域の研修員(カザフスタン・キルギス・タジキスタン・ウズベキスタン)が来られました。初日は寒い日でしたが、研修員は「うーん、春の初めの陽気と同じだな、大丈夫だ」と言っていました。それもそのはずです。彼らの国は-30℃の日が続くことがあるようです。

今回のこのコースは、日本が各国に対して無償資金協力(それぞれ数億から数十億円)で供与している医療機材の保守管理能力向上のために行われています。以前は日ソ連により供与されていた機材も老朽化し、日本製の新しい機材に入れ替わっているようです。弊社では、5S(※)の重要性を強く訴え、壊れたら修理するのではなく、日常のメンテナンスに力を入れ、修理コストを下げ、機器の寿命を延ばしてもらうように日々研修を進めています。研修員は、研修中にアクションプランを作成し、帰国後も自国で継続して活動します。研修員1人が同僚に指導、助言していくことでその国の医療機器保守管理の技術が向上していくことを願い、研修する毎日です。

株式会社メディサン 近内 愛



※5S…整理・整頓・清掃・清潔・躰(しつけ)の5項目を指し、製造業やサービス業などの職場環境維持改善用語として用いられています。

課題別(集団)研修

「畜産行政」コース

「畜産行政」コースは、平成20年度が第1回目となる、まっさらのコースです。第1回目は7カ国、9名の研修員が参加しています。

外国から与えられた政策ではなく、途上国の人材が自ら畜産振興の方法を考え、実行する力をつけることが大事だと考え、西郷村にある(独)家畜改良センターにて長年積み重ねた畜産振興技術・知識を活かし、途上国の畜産開発の政策を企画・立案できる人材を育てるための研修コースを実施することとなりました。

このコースは、事前に自国の畜産行政に関する具体的な課題について整理した上で日本での研修に臨み、日本の畜産の歴史と現状、国や県、市町村が行っている施策や制度、目的に応じた技術などを学び、自国で実行可能な問題解決方法を計画・提案できる指導的な役割を担う人材の育成を図ることを目的としています。

これからますます寒さが厳しくなる時期ですが、研修員のやる気は寒気に負けずに燃え上がっています。



独立行政法人家畜改良センター
海外協力課 森田恵美

◀ 西郷村にある古い牛舎を訪れ、日本の畜産の発展・歴史を学んでいます。

福島県出身のJICAボランティア 平成20年度第4次隊 (二本松青年海外協力隊訓練所)

※今隊次より、訓練対象者は「候補者」から「JICAボランティア」に名称変更しました。

166名の候補者が
1月7日(水)に派遣前訓練
を開始しました

世界中の人々に、ほんとうの愛を送りたい・・・

JOCV 南條 昌子
出身地：石川郡石川町
派遣予定国：チュニジア
職種：理学療法士



理学療法士として働き、患者さんと共に多くの悩みを乗り越え、多くの笑顔や喜びを実感してきました。青年海外協力隊で理学療法の分野を知り、自分の技術を活かせるのなのらと思ひ、また自分の視野を広げる為、海外ボランティアに応募しました。
派遣先では、主に肢体不自由児者のリハビリテーションを担当して、機能回復の手助けを行う予定です。現在までの経験を活かし、任国にて共に笑顔が生まれるよう活動してきたいと思ひます。

JOCV 廣田 陽介
出身地：伊達郡飯野町
派遣予定国：ベトナム
職種：村落開発普及員



約9年ぶり、2回目の協力隊参加となります。前はアフリカのタンザニアで水田のため池補修や農道整備などを行ってきました。
今回は日本に近く、日系企業の進出も多いベトナムへと派遣される予定です。食料自給率の低い日本では、食料を海外へ頼らざるを得ません。しかし、海外の農村地帯では貧しいところがまだまだたくさんあります。そんな農村の1つに住み、住民と一緒に問題点の発掘や、解決策を模索していけたらと思ひます。

SV 菅野 洋二
出身地：福島市
派遣予定国：シリア
職種：繊維



これからの人生をどう生きたらいいのだろう？充実した生活でありたい。ポジティブに生きてゆきたい。それも妻と一緒に。そう考えていたところで、JICAと出会いました。説明会、一日体験入隊に参加してJICAでなら、私たちが望むようなものが実現できると考え、応募しました。
長年経営してきた織物工場で培った技術や経験を開発途上国の人たちの為に役立ちたいと思ひ以上に、任地シリアで自分たちが育てられ、成長できるのではないかと期待しております。そうなることで、更に任国であるシリアの人たちの役に立つのではないかとと思ひます。

JOCV 星 剛
出身地：西白河郡矢吹町
派遣予定国：ラオス
職種：理数科教師



“学び”は私の人生最大のテーマであり、また開発途上国が持続的な発展をしていく上で避けて通ることができない道の一つが教育問題の改善です。そこで今回、開発途上国における教育の普及の一助となるべく、JICAボランティア事業への参画を決意しました。
指導した生徒の中から、地球市民が抱える問題に解決の糸口を与えるようなテクノロジーの担い手が現れることが私の夢です。子どもたちの学びが、世界の明日を紡ぎますように。

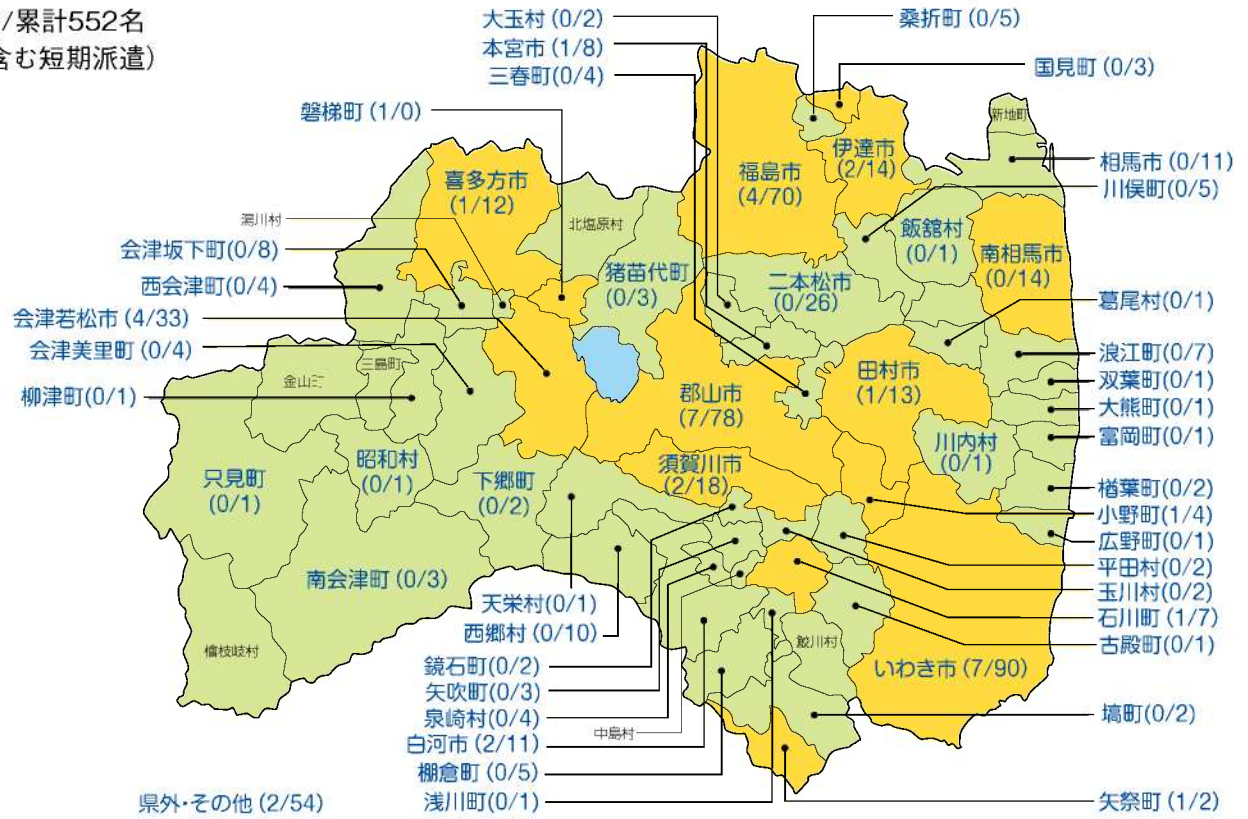
駒ヶ根訓練所福島県出身JICAボランティア (出身地/派遣予定国/職種)

- 布田 雄哉 (福島市/エクアドル/水泳)
- 山寺 四郎 (須賀川市/チリ/環境教育)
- 平河 佐智恵 (福島市/ネパール/手芸)

福島県出身JICAボランティア 2009.2.1現在 (派遣中/累計)

黄色：派遣中ボランティアの出身地

合計 派遣中34名/累計552名 (含む短期派遣)



2月～4月の イベント情報

2月	JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2008表彰 (表彰式は受賞者在籍校および受賞校にて行う 予定です。〔日程調整中〕)
3月12日(木)	平成20年度 第4次隊 修了式
4月4日(土)	平成21年度 青年海外協力隊 シニア海外ボランティア 募集説明会開始 <small>←下にポスター</small>
4月9日(木)	平成21年度 第1次隊 入所式(予定)

平成21年度 青年海外協力隊・シニア海外ボランティア 春募集

JICA二本松
福島県の皆様へ

世界も、自分も、愛えるシゴト。
シニア海外ボランティアは、福祉・教育・農村開発を通して、
海外に貢献しながら、自分自身の成長も目指すことができます。
海外に貢献しながら、自分自身の成長も目指すことができます。
海外に貢献しながら、自分自身の成長も目指すことができます。

春募集
4/6～5/18

シニア海外ボランティア

※青年海外協力隊も同時に募集を開始します。
※右記以外の開催地、日程でも、5名以上のお申し込みがあれば、《特別募集説明会》を実施しますのでご連絡ください。
お問い合わせは右記、JICA二本松(齊藤)まで。

JICA二本松 公開講座

JICA二本松では、JICAボランティア向けに様々な講座を実施しています。下記の講座では、一般の方々も無料で参加することができます。

開催日	時間	講座内容
2月5日(木)	19:00～21:00	公開講座『地球のステージ』 講師：桑山紀彦 (NPO法人「地球のステージ」代表)
2月9日(月)	15:10～17:00	公開講座『ジェンダー入門』 講師：水野桂子 (フリーコンサルタント)
2月19日(木)	15:10～17:00	公開講座『イスラム教とは何か』 講師：青山弘之 (東京外語大学 准教授)

※「公開講座」の申し込み方法は、下記JICA二本松の電話番号にて募集・広報担当者宛にお問い合わせください。また詳しい情報は、ホームページ<http://www.jica.go.jp/nihonmatsu/event/index.html>をご覧ください。

平成21年度 春募集 JICA ボランティア募集説明会

あなたの情熱を海外で活かしてみませんか!!

開催地	期日	曜日	時間	説明会場	案内
福島	4月4日	(土)	14:00～16:00	コラッセふくしま 401 研修室	JR福島駅西口から徒歩3分
白河	4月8日	(水)	18:30～20:30	マイタウン白河2階	JR白河駅から徒歩5分
会津若松	4月11日	(土)	14:00～16:00	レオクラブガーデン スクエア	JR会津若松駅からバス徒歩10分
福島	4月22日	(水)	13:00～15:00	福島大学 S21 教室	JR金谷川駅より徒歩5分
郡山	4月25日	(土)	14:00～16:00	ビッグバレット 小会議室1・2	JR郡山駅西口からバスで15分「ビッグバレット」下車
いわき	5月2日	(土)	14:00～16:00	ラトブ6階セミナー室	いわき駅より徒歩3分
玉川村	5月3日	(日)	15:00～17:00	福島空港ビル内	JR郡山駅からシャトルバスで40分
郡山	5月8日	(金)	18:30～20:30	ビッグアイ郡山7階	JR郡山駅より徒歩3分
二本松	5月9日	(土)	15:30～17:00	JICA 二本松	JR二本松駅からバスで25分(NTC)下車

- 入退場自由・参加費無料です。お気軽にお越しください!
- 上記以外の開催地、日程でも、5名以上のお申し込みがあれば、特別募集説明会を実施しますので、下記までご連絡ください。
- お問い合わせは JICA 二本松(齊藤)まで。電話：0243-24-3200
メール：jicanjv-bk@jica.go.jp

☆実施内容☆

- ①ボランティア活動ビデオ上映
- ② JICA 事業概要説明
- ③ボランティア経験者による体験談
- ④ボランティア経験者による個別相談会



JICA 二本松 メールマガジン

JICA 二本松では、毎月中旬に無料メールマガジンを配信しています。毎号、JICA 事業(訓練の様子、技術研修の紹介)や各種イベントなど、福島県を元気にする、様々な国際協力・国際交流に関する情報をお届けします。無料購読を希望される方は…

☆登録方法☆

[jica-ntc-ctl@joca.or.jp]宛てに、本文に【subscribe】と入力して送信してください。
※「CC」と「件名」欄への記入の必要はありません。
〔登録された情報は、JICA 二本松が適切に管理し、メールマガジンのサービス以外の目的で利用することはありません。また、無断で第三者に情報提供することはありません。〕

JICA二本松へのアクセス

独立行政法人国際協力機構 二本松青年海外協力隊訓練所

E-mail: jicanjv@jica.go.jp

〒964-8558

福島県二本松市永田字長坂4-2

TEL: 0243-24-3200

FAX: 0243-24-3214

※皆様からのご意見等をお待ちしております。

◆本誌、バックナンバーがご覧になれます…

URL: <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/newsletter.html>

—E— 2009年12月号「JICA」発行 100部
—F— 2009年12月号「JICA」発行 100部
—G— 2009年12月号「JICA」発行 100部

